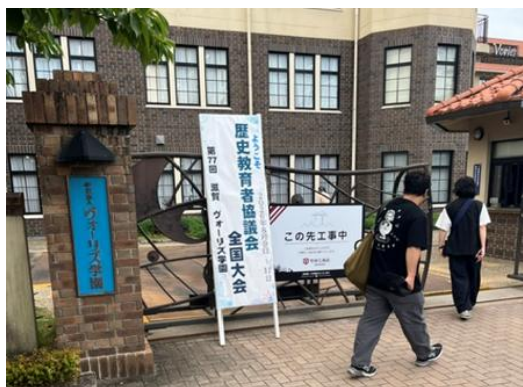


2026 年、はじめて滋賀県で開催された歴教協全国大会

1. 滋賀県ではじめて開催された全国大会

第77回全国大会は、滋賀県近江八幡市にある学校法人ヴォーリズ学園 近江兄弟社中学・高等学校で開催されました。本部主催の東京大会を2年続け、久しぶりに現地実行委員会を立てての大会。それも“初”の滋賀大会でした。7月末に熊本を大震災が襲い、まだインフラも復旧せず避難者が多いという中、また台風が沖縄に上陸するという時期でした。そのような中で、大会開催する重みや責任を感じての大会でもありました。



2. 大会テーマ「地域から平和と共生の世界をきずく」

大会初日、10時から始まる全体会の前に、嬉しいことに近江兄弟社高等学校吹奏楽部の歓迎演奏をしていただきました。翌日に県大会を控えているという中での演奏。本当に素晴らしい演奏が礼拝堂に響き渡りました。感謝です。

山田委員長による基調提案は大会テーマ「地域から平和と共生の世界を築く」として、現在の日本国憲法の理念から大きくかけ離れている日本や世界の情勢の深刻さが語られました。満州事変からわずか8年で戦争になったこと、誰もこんな戦争になると思ってなかったのに、という話が心に残ります。歴

史は変わる時は一気に変わるという話は今実感があります。子どもたちとともに、戦争をしてこなかったこと、地域の人びとの活動、世界と手を携えた活動に学び、平和と共生の世界を地域に広めていきましょうと、この大会の意義を訴えました。

3. 感動の地域実践報告

地域実践報告は「ヴォーリズ学園発 愛と平和に満ちた共に生きる社会をめざしてーTo work for social reformsー」です。ハンドベルの演奏にはじまり、ウィリアム・メレル・ヴォーリズの建学精神と近江兄弟社の歴史、現在ヴォーリズ学園ですすめられている「いのちを大切にする教育」「平和への想い」を、高校生と学園の先生達がいっしょに朗読劇、合唱で伝えてくださいました。最後の合唱「Believe」では、会場の多くの参加者が、感激し涙していました。



今回ヴォーリズ学園では特製弁当を用意してくださいました。昼食時、食堂では久しぶりに出会う、全国の知人たちで特製弁当を囲みながら、談笑。こういう光景も全国大会ならではのいいですね。さあ、お腹を満たしていいよ全国から150本以上のレポートが報告・討議される「分科会」です！



4. 150本以上のレポート報告で充実の分科会

分科会の詳しい報告は、『歴史地理教育』11月増刊号に譲ることにして、9日から10日にかけて、8時間半行われた分科会参加者の感想を紹介して雰囲気をお伝えします。

①地域の掘りおこし

みなさんがそれぞれに地域を掘り下げる実践、またそのおもしろさを語っておられてとても勉強になりました。戦争に関連するものは、だんだんと減っていくことをかんがえると、残っているものを如何に掘り起こしていくか、それをどう捉えていくかということを考えました。

②日本前近代

実際に博物館や史跡などに訪れたり、学芸員の方のお話を伺うことを授業に入れていくことや、近年の研究成果やデータなどを活用し伝えていくこと、そして生成AIを用いつつあくまで主導権は先生に持たせ補助に置くといったこと。いずれの実践についても、生徒観をしっかりと持った上で一番興味を持つことができるような授業を作り上げていくことが必要であるのだということを学ぶことができました。

③日本近現代

初めて参加しましたが、とても皆さんが教材研究に熱心であり、自分ももっと頑張らなければととても励まされました。関原先生の

発表から歴史総合において歴史を丁寧に調べていく姿勢がとても重要であると改めて実感しました。歴史に対して一つずつ真実を明らかにしていくことでそこから得られる教訓が分かり、さらに問題が終わっていないということを実感しました。

④世界

ぼんやりと現代世界の課題を、格差とポピュリズムととらえていましたが、分科会を通して少し鮮明になってきたように思います。現代の閉塞感を、生徒一人ひとりが求めている学びを通して、生徒が求める力を提供できる学びを組み立てたいです。



⑤憲法と現代社会

憲法学習について、立憲主義、三原則、平和教育、人権、地方自治など、多岐にわたる論点が出され、率直な意見交流ができて大変良かったです。しかしどのテーマも、深く、時間がいくらあっても足りないです。継続して話し合う機会があるといいなと思いました。

⑥思想・文化・地域活動

各地の地域に根ざした研究実践が報告された。やはり欠落に気づかされることが多く、自身の研究の見直しを迫られている。一言で「強制連行」と表現して扱うのではなく、史料や遺跡など詳細な検証をする必要があることを報告が示している。

⑦現代の課題と教育

世間に蔓延する排外主義に対して、様々な学校現場で取り組まれていることに勇気もらいました。北海道の小学校の実践で子どもたちが実際にアイヌ文化に触れる、出会う機会を多くつくっているということに感銘を受けました。やはり人として出会い関わっていくことがヘイトを乗り越える手立てなのだろうと思います。



⑧平和教育

先生方の報告をきいて、パワフルな熱意と想いが伝わってきました。社会科の教員をめざす者として平和教育を学び実践していくことが大切だと、日々大学で学ぶ中で感じています。しかし私にできるかと不安もあります。そこで山口先生のお話から学ぶことが大きかったです。私も一つひとつの出会いを大切にしていきたいと思います。

⑨幼年・小学校低学年

ヒト、モノ、コト、リアルな体験を通して学ぶことがとっても大切だと思います。色々な経験をして自分もまずはマネをすること、そしてアレンジして自分なりのものにしていこうと思います。安井さんのおもちゃづくりがとても楽しかったです。ありがとうございました。

⑩小学校3・4年生

身近な地域を題材にして社会を見る目を育てるというやり方に、いろいろなアプローチのしかたがあり、とても勉強になりました。

やらされている、ではなく、教師も楽しんでいることで、子どもたちの生き生きしている様子が目に浮かぶようでした。

⑪小学校5年生

大学で小学校教員養成課程、社会科コースに学んでいます。「小学校5年生分科会が一番おもしろい」と聞いて参加しました。今年はじめて全日程参加し、5本のレポートから大いに学びました。おもしろかったです。

⑫小学校6年生

他の都道府県やお隣の国との実践を比べながら協議ができることに感動いたしました。場所が違えど色んな観点や視点から歴史や平和について考える授業があったり、授業者によって内容も手段も流し方も違ったりすることを改めて感じ、そして考え、自分の中での常識が更新されていきました。

⑬地域の中の子どもたち

報告のバリエーションが豊かで、とても面白かったです。特に学童保育の現状のリアリティがよく分かりました。学校、行政、地域や民間のそれぞれの分断を感じました。手を取りあっていく仕組み、仕掛けがこれからより必要なのだろうと感じました。

⑭-1 中学校 地理と国際理解・平和分散会

日本語学校に来ている外国出身の方にインタビューした動画を子どもたちに見せて、外国の文化や、日本人の意識などについて、子どもたちが議論している実践が印象に残りました。平和教育では核廃絶のとりくみから、



さらに絶対的な平和をめざす見通しをもった実践が大切だと思いました。

⑭-2 中学校 歴史分散会

中学生の関心を引きつけるものの1つが、地域の歴史だと思わせていただけるご報告が多かったと思います。特に赤間さんのご報告は、「地域の歴史を他者に発信できる」ことは「生きるための力」にもなりうると思わせていただきました。歴史を自分事にするための方策やその意義を考えさせられた1日目でした。

⑭-3 中学校 公民分散会

滋賀まで来て良かったなあと感じました。子どもたち自身の生活に基づいた授業の大切さを実感しました。データだけでなく、生活に落とし込むところまで、いつもわくわくするような実践報告、ありがとうございます。

⑮ 高校

全国大会ではじめて報告しました。レポートの作法から学問的な質問まで多くの学びがあり、滋賀まできてよかったと思いました。他の参加者の報告も非常に専門性が高く、明日からの授業の参考にさせていただきます。

⑯ 大学

近年の文科省の方法重視の傾向に対して、あらためて内容の充実が大切であることを確認できました。他大学の状況、教職員大学や教育学部の実践で直面している課題を、リアルに語り合うことができて良かった。

⑰ 障がい児教育

司会者の方の手腕なのか、二日間とても良い雰囲気、ていねいな運営が良かったです。刺激的なレポートばかりで大変勉強になりました。なかなか聞くことのできない異校種のお話も聞くことができて知見を広げることができました。分科会名を、特別支援とかに変えてはどうでしょう。

⑱ 社会科の学力と教育課程

深くたっぷりした討論がなされ、これまでの分科会の歩みを振り返る厚みのある学びができました。今年度で休会になるのは残念です。

⑲ 授業方法

自分と同世代の先生方の豊かすぎる実践に危機感と劣等感を覚えるとともに、刺激をもらうこともできました。どの授業も自分の授業にも活かしていきたいと思うものばかりでした。また、導入の大切さを改めて痛感しました。研究していくとどうしてもメインや結末に重きを置くようになってしまいが、そこを盛り上げられるかどうかは導入にかかっているはずです。導入で生徒たちを惹きつけられるような授業を構成していきたいです。



特設「歴史総合」

日朝近現代史に関する報告が多かったですが、日本と朝鮮の2つだけを見るのではなく、欧米、東アジアの視点を入れて考えることも大切だと分かりました。イスラームも含め、子どもたちに身近に感じさせる仕掛けが授業で必要だと思いました。現代に起きている戦争を知り、ひどいことが起きていると感情で受け止めるところから始め、どうしてそういうことが起きたのか、歴史的視点で理論的に構築していくことが、戦後80年や歴史総合を考えるヒントになると思いました。

レポートにある豊富な資料もとても参考に

なりました。

5. 地域に学ぶつどい

①今にいかすヴォーリズスピリット

全体会からの流れでヴォーリズさんに興味をもって参加しました。明瞭な説明でわかりやすく、また話を聞く中で、なぜ、どうして、と疑問がわくものでした。各教室に貼ってある「Do with Others, Do for Others」という言葉が心に残りました。

②廃城以降の安土城

まだ行ったことないので楽しみにしていました。江戸時代は信長の巨大な墓標として保全され、明治時代な顕彰活動で大事にされ、戦後は石積し直して保全し、最近では考古学的な調査が進み。いつの時代も大切にされていたんだとわかりました。知らないことだらけでした。

③刺繍と平和～ガザの女性の尊厳を守る

ガザの紛争で、ただ殺されるだけでなく、文化的にも殺すことを向こうが狙っているため、その継承として刺繍の販売をしていることがとても印象的でした。貴重なお話ありがとうございました。

④サンタナ学園から発信する多文化共生

「学校は夢をつくる場所」というケンコ先生の言葉にはっとしました。それは国籍や国境を越えて、共通することだと気づきました。

「外国人とは誰のこと？」という問いかけには、考え込んでしまいました。多文化共生の現実の厳しさを感じました。

⑤滋賀の戦争遺跡から学ぶ

講師の水谷さんの戦争遺跡フィールドワークや、事前の資料調査など、長年の研究の蓄積をお聴きすることができました。ただ「そこで戦争があった」ではなく、戦争遺跡から「何を学ぶか」という視点が大切だと思いま

した。国防や英霊というキレイな言葉は、決して市民を守るものではないとわかりました。個人的に、とおっしゃられた、戦前の忠魂碑の宗教性についてのお話が面白かったです。

⑥教科書ネット デジタル教科書

とても刺激を受けました。自分は教員2年目で、与えられたものを頑張っている状況でした。ただ、次の学習指導要領やAIの活用など新しいことを知ることができた。学び続けることが改めて重要だと感じた。ありがとうございます。



⑦日韓委員会 地域史教科書の編纂と活用

韓国における地域史学習の現状を知ることができた。ソウルに滞在した際に行った中央博物館や戦争記念館、ソウル博物館の展示の工夫にとっても驚いたので、韓国は資料の保存と展示に力を入れているのだと思っていたが、安山市には歴史博物館がないと聞き驚いた。入試による地域史学習の形骸化など日本と似ているような問題を抱えているのだと思った。

⑧日中委員会 現代中国の歴史教育

中国、そして香港における歴史教育、愛国教育について貴重なお話を伺うことができました。私も中国における少数民族教育に興味関心があり、雲南省シーサンパンナ自治州では、公教育と並列して寺院などでの教育が行われていると伺いました。実際に少数民族地

域における公教育ではない領域では、歴史教育がどのように行われていったのかという点を伺いたいと感じました。

6. 閉会集会、現地見学会

はじめて大会に参加した若い学生さんの発言から、二日間の大会の学びの深さを参加者で共有できました。また分科会再編により今大会で「社会科の学力と教育課程」の分科会が休会するにあたり、これまでの研究の蓄積と成果を受けて広げていくことを、他分科会に参加してきた立場でも考える必要性を感じました。

そして、今大会を支えてくださった滋賀県歴教協とヴォーリズ学園の教職員の方々による現地実行委員会のみなさんから、来年の大会を担う埼玉県歴教協のみなさんへと、引継ぎが行われました。埼玉の若手から歴教協の研究を続ける想い、大会成功への意気込み報告を受け、来年にむけて期待が高まりました。



告を受け、来年にむけて期待が高まりました。

最後に、会場校として本当にお世話になったヴォーリズ学園藤澤理事長の挨拶をいただく中で、全体会の発表を通して「生徒を誇りに思う」というお話。そのことばで、大会を担うことが現地で忙しい思いをした疲弊ではなく、財産になっていくと言っただけのようでした。本当に滋賀で、ヴォーリズ学園で開催できて良かったです。

「とても楽しい会でした。学んだことを次回にいかせていけるよう頑張りたいと思います。」「来年度の埼玉大会も楽しみにになりました。」「また来年！」の声をかわして閉会しました。



大会参加者400名、ヴォーリズの生徒や先生たちもあわせて470名を超える参加者、さらには近年の大会では少なかった大会中の新入会も迎えることができて成功裡に終わった滋賀大会でした。

翌日は現地見学で、「ヴォーリズが愛した近江八幡のまちを歩く」「国内淡水湖唯一の有人島沖島から学ぶ」「滋賀の戦争遺跡」「安土城跡」「甲賀の忍と東海道宿場町」「朝鮮通信使・雨森芳洲の史跡」と多彩なコースで滋賀を堪能し、それぞれに、たっぷりと学び、味わい、お土産をもって帰路につきました。

来年も、もっともっと仲間を増やして「埼玉大会」につどいましょう。